

# Earthwatch-Kao Teachers Fellowship Report

by Lawrence Jones

私は2015年8月8日から8月14日まで「ライン川流域のビーバー」という調査に参加しました。オランダの国境に近いドイツのエメリッヒ市がベースとして、いくつかのビーバーが活動している場所で調査を行えました。主任科学者の Megill 博士は、エメリッヒ近郊のクレーヴェにある大学で教えるカナダ人で、補助員としてドイツ、ポーランド、フランスからの学生3名を連れてきていました。このプロジェクトのボランティアの英国から3名、オーストラリア人1名、アメリカ人1名、そして日本からの黒川さんと私含めてとても国際的なグループでした！



ボランティアは皆  
同じホテルに滞在



し、毎朝一緒に朝食をとり、メギル博士と学生

の迎えを待ちました。私たちは車でビーバーがそれまで観測された様々な場所に行き、そこにある木の種類や大きさ、位置、そしてビーバーによる被害を受け



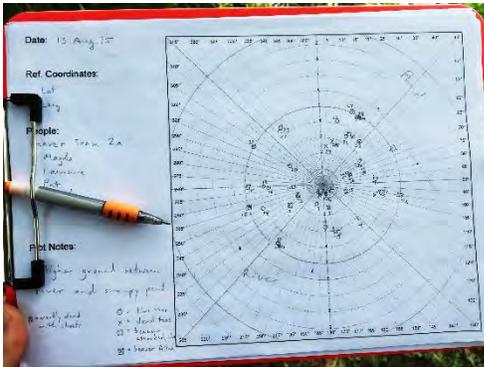
ていないかを調査しました。森の中を歩く時、棘のある低い木や触ると刺すような痛



みを感じるイラクサや等の植物が多いため時々大変でした。木の特定に役立つスマートフォンアプリを持っていましたが、多くの木の木葉は形が似かよ



っていたり、またはアプリにも記載がないことがあったため苦労し



ました。幸いにも、英国人のボランティア2名が植物について長けていたため、残りのメンバーに教えてくれました。



毎日、昼食はメギル博士ご夫婦が用意して下さったピクニック・ランチを頂きました。毎回おいしく頂きました～私はドイツのパンやチーズ、肉が大好きなのです！昼食の後、たいていは木の識別

作業を行い、夕食のためにホテルに戻りました。

最後の日は Dr. Megill と学生たちが集めたデータをパソコンに入力しました。





ビーバーはほとんど水中で生息し、食料や「口ツジ」と呼ばれ



る巣の材料にするための木をかじって切り倒します。ビーバーは多くの場合夕方に活動するので、夕食後の時間帯に、実際のビーバーを見つけに出掛ける機会を滞在中に2度持ちました。私たちは湖畔に座り、ビーバーが現れるのを待ちました。私は幸運にも2回ともビーバーを目撃することができました。とても興奮しました。

ある日、ビーバーの形跡がある場所を調査するため、カヤックを漕いで小川を上がりました。私たち



はビーバーによって一部、あるいは完全にかじり倒された木や、ビーバーが作った小



道を多く観察しました。天候に恵まれ、道中には沢山の種類の動物を見ました。私はカヌーやカヤックを漕ぐことが好きなので、素晴らしい一日となりました。

また別の日には、メギル博士と学生たちがこの秋に競技会で発表する人力潜水艦を作成するために水生動物の研究をしている大学を訪問しました。また、クレーヴェでは、地元の「城」を見学したりして観光をしました。



私は、アースウォッチのビーバー観察プロジェクトを終えた後、数日ベルギーとルクセンブルグを旅行してからドイツに戻り、日本への帰路に就きました。



日本に帰ってからできるだけ多くの同僚と生徒たちに

Earthwatch の経験を語りました。私の学校が English immersion ( 英語浸け ) 制度の小



中高一貫校です。国語と社会以外ほとんどの授業が英語で行います。私は 1 . 2 年生の生活科、 4 年生のコンピュータ、 6 年生の理科を教えています。英語の授業で 2 年生がちょうどいろいろの動物たちのすみかを勉強していたところでしたから、生活科の授

業でビーバーの話しをできました。調査の体験に私の撮った写真と動画や YouTube の動画でビーバーがどういう風に木を倒してダムやロツジ ( 巣 ) を作ることを見せました。そして全校集会で Earthwatch の調査とビーバーの写真と動画を見せて発表しました。Kao・ Earthwatch Teachers Fellowship をちょっと説明して、調査の行った場所と活動を話しました。ビーバーのことも、特にビーバーが自然環境とほかの生き物にどんな大事な存在をしているかを伝えようと思いました。これからの仕事と人生に役立つだろうの経験でした。

ビーバーはカナダの国獣(国を象徴する動物)ですが、私はヨーロッパにもビーバーが生息することを知らなかったので、このプロジェクトに関心を持ちました。一つの学んだことはビーバーの行動でたくさんの動物の生活が支えられます。ビーバーが木を切るとき、林が開いて、日光が下のところまで届いて、いろいろな植物が生えてきます。ダムを作って池ができることでいろいろな動物のすみかや飲んだり食べたりできるところになります。このようにビーバーが生物の多様性に大きな影響があります。

ビーバーの地域のすがたを変える力は人間に対していつも望ましいことではありません。ヨーロッパには特にビーバーと人間がぶつかる時は多いです。この Earthwatch プロジェクトの目的は人間とビーバーが共存できるような計画を作ります。そのためにデータを集めています。ビーバーの数はまだ少ないですから大きな問題になっていません。これからビーバーたちが増えれば増えるほどいろいろな工夫をしなくてはなりません。



調査の地域の住人には  
ビーバーの存在を知ら  
ない人が多かったそうで



す。それでも一般的にドイツ人が自然をたいせつに気がしました。町にたくさんの緑と公園がありました。リサイクル

ルステーションがたくさんありました。砂と砂利を作る会社が砂を掘った場所を終わ



ったときにど  
ういう風にき  
れいな状態に



戻す計画も政府に出さなくてはいけないそうで  
す。

日本に比較するといろいろな違いがあります。インターネットと Wifi の通信が遅かったです。期待外に電車がわかりづらくて、時間通りに走らないときは多かったです。小さい町のせいだったかもしれないが、思ったほど英語が通じなくて驚きました。調査中の天気は完璧でした！日本より涼しくて、湿気が少ないです。ドイツ人は一般的に親切でした。道迷った時などに一種懸命に手伝おうとしてくれました。食事とビールが特に美味しかったです。

今回の調査には関係ないですが、最近、難民の問題がよく  
ニュースに出ています。ドイツに小さい町でも移民が多い



です。ケルンという街に歩いていた時、信号機の裏に「Refugees Welcome」（難民さん歓迎）と書かれたステッカーが貼ってありました。すごく感動しました。今年は難民の人数が爆発的にふえています。調べたら、去年にドイツが難民 8 万人を受けました。一方、日本は 11 人！確かに、大勢の異文化の人を急に増やすと、いろいろな問

題が出る可能性がありますがこの差は異常だと思います。このことに対して、日本がもっと頑張ってもらいたいです。

今回のプロジェクト参加は素晴らしい体験でした。ビーバーのことについて沢山学んだことはもちろんですが、自然生息地に関するデータ収集についても学ぶことができました。私は、カヤックやウォーキングなどの野外活動を楽しみました。新しい場所や新しい文化も経験し、日本に多くの長所があることに気付くことができました。アースウォッチは世界中で様々なプロジェクトを行っています。機会があれば他のプロジェクトにも参加したいと思っています。科学や地球について学びたい方、地球のために何かをしたい方にこの体験をお勧めします。